

シロチドリ

Charadrius alexandrinus Linnaeus

チドリ目チドリ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

繁殖個体数は少ないうえ、近年の海岸浸食など、生息環境の悪化により激減するおそれがある。

形態

全長17cm。翼長11cm。体重45g。雄夏羽では頭頂が茶褐色で、上面、雨覆は灰褐色、前頭部に黒帯がある。額から続く眉斑は白色で、過眼線と胸側は黒色で、喉から体下面は白色である。雌は頭頂、前頭、過眼線、胸側が砂褐色である。翼帯があり、嘴と足は黒色、雄の冬羽は雌に似る。幼鳥は背から雨覆にかけ羽縁に淡い褐色の縁どりがある。

国内分布

北海道から南西諸島までみられるが、繁殖するのは九州以北である。北日本では繁殖後暖地へ移動する。

県内分布

加賀海岸から能登半島外浦の海浜、砂浜で繁殖している。繁殖ペアは30～40、80羽未満と推測される。繁殖期が終わると群をつくり一部南下するが、越冬するものもある。

生態

砂浜海岸などで繁殖する。繁殖期は4～7月で、小石などを産座に集めただけの簡単な巣を地上につくる。一腹卵数はふつう3個で、約3週間で孵化する。孵化したヒナにはすでに綿毛がはえていて、独力で採食する。採食場所は主に海岸や干潟などで、餌は甲殻類、ゴカイなどの小動物である。

生息地の条件

県内での繁殖地はほとんど砂浜海岸である。人間活動による影響を受けやすく、人為的影響が少ないことが生息地の条件となる。

生存の危機

海岸浸食による繁殖地の消滅や、侵入してくる4輪駆動車、オートバイ、釣り人、イヌの散歩、集団海岸清掃などにより繁殖がかく乱されやすい。(A)

